



白南風小学校 学校だより

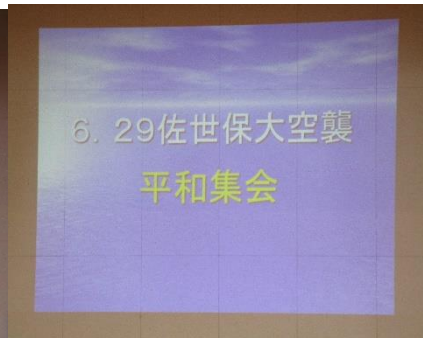
令和5年7月6日号

しらはえっ子

校長 三代 直正

やさしいいっぱいの子 やる気いっぱいの子 元気いっぱいの子

6. 29佐世保空襲の日 平和集会



6月29日(木)佐世保空襲の日 平和集会をおこないました。内容は、1 はじめの言葉 2 佐世保空襲の説明 3 絵本「赤いくつ」のリレー朗読 4 「くすのき」合唱 5 黙祷でした。

前半は、集会委員会のみなさんが、スライドを使いながら78年前の佐世保空襲とはどんな出来事だったのかを分かりやすく説明をしました。その時使ったスライドには、日頃見慣れている佐世保駅前、市役所前、玉屋前の様子が、一夜にして大きく変わった写真がありました。その変わり果てた写真を見て、子供たちは戦争の恐ろしさや悲惨さを感じたことと思います。後半は、先生方による佐世保空襲の様子を描いた絵本「赤いくつ」のリレー朗読でした。先生方一人一人が平和の願いを子供たちに届けようと心を込めて朗読を



しました。この絵本の最後に子どもの靴屋のおばちゃんが貼り紙に書いた

「こどもたちへ 赤いおくつが はけない 世の中に 二度と しないで」

という言葉の大切さと重さを、子供たちはしっかりと感じたことと思います。黙祷の時は、272名が入っている体育館から「音」が消えました。子供たちが心から平和を願う思いが高まったあらわれだったと思います。

6月30日の長崎新聞「水や空に」上のようなコラムが掲載されていました。

水や空

2023.6.30 平和教育を考える全国規模の集会に、佐世保市の小学校教師の1人はよく参加した。いつも残念に思うことがあったという。本県の代表が発表する平和教育のテーマは、ほほ例外なく「原爆」だった▲自身が体験した佐世保空襲を取り上げられることは「まず、ない」。取材に伺ったとき、そう語っておられた。その元教師とは「佐世保空襲を語り継ぐ会」代表だった新員武史さん。14年前に79歳で亡くなった▲こんな話を聞いた。長崎市で佐世保空襲の写真展を開いた折、通りがかった長崎市民から「佐世保で空襲があったんですか」と尋ねられた。長崎原爆を知らない人はいない。この認知度の差は何だろう、と▲体験を広く知ってもらい、語り継ぐことの難しさを、新員さんはずっと前に感じていた。体験したご本人が「じかに語る」から、体験していない世代が「語り伝える」へ。時代が移行しているいま、難度はもっと上がっている▲佐世保空襲から78年たった。きのうの1面の記事に、若い世代の継承活動がほとんど見受けられず、いかにバトンをつなぐかが課題とある▲「知らない世代」がいかに動くか。「知らない世代」の関心をいかに呼び起こすか。いくつもの「いかに」を考え、問い続けるしかないのだろう。(徹)

学校現場でも佐世保空襲について伝える難しさを感じています。しかし、平和教育は子供たちにとって重要な学習です。白南風小学校では、「わかりやすく」「工夫・繰り返し」「考える機会」を大切にしています。

体育館で集会が終わった後は、教室に戻って平和に対する願いや思いをまとめました。翌日からの3

日間、各学級の代表1名がお昼の放送で発表しました。以下その内容です。

僕は、戦争は絶対にしてはいけないことだと改めて感じました。戦争は大切なものを奪い、焼き払うとても悲しいことです。僕は、どうしてそんなに悲しいことをするのか分かりません。今もウクライナとロシアが戦争をしています。僕は何があっても人を傷つける戦争をしたくありません。だから、暴力ではなく話し合いで解決したいです。みんなが安心して寝たり食べたり、勉強したりできる平和な社会、世の中にしていきたいです。(6年)

6・29平和集会を終えて、戦争は二度としてはいけないと改めて思いました。戦争は人と人が互いに傷つけ合う一番ひどい差別だからです。戦争で家や家族を失い、家族とご飯も食べられず、話をすることもできなくなります。戦争で勝った方は喜ぶかもしれないけど、負けた方はとっても悲しい気持ちになります。なので戦争は何があってもだめです。平和な街に戦闘機が飛んで来たら平和ではなくなります。だから戦争をしてはいけません。平和な世界とは戦争がなく、人々が差別をしない世界だと思います。これからは、差別をしないで自分の命も人の命も大切に、平和であることに感謝しながら生きていこうと思います。(6年)

ぼくは「赤いくつ」を聞いて、戦争は絶対に起こしてはいけないと思いました。戦争は人と人の「差別」の争いだと知りました。戦争をすれば多くの人々がけがをしたり、死んだりするのに、どうして日本と他の国は戦争をしたのか不思議になりました。戦争をすると必ず、今までにない恐ろしいことが起こると知ったので、戦争を始めないために、今自分にできること(友達と仲良くするなど)をしていこうと思いました。(5年)

私は「赤いくつ」の話を読んで、戦争は本当に怖いものだと思います。「今はないから、大丈夫」と少し思っていたけれど、この戦争をしていた人たちのことを考えてみるとその「大丈夫」という気持ちがなくなりました。亡くなってしまった人も大けがになった人もたくさんいました。私たちは今も平和にくらしているのは「幸せ」なんだと実感しました。このお話を読んで、私は二度と争いのない世の中にしたいと思いました。(5年)

ぼくは今日の平和集会の話を聞いて、前よりも戦争のこわさが伝わってきました。今の世の中は本当に幸せなんだと改めて思いました。(4年)

私は平和集会を通して、戦争は幸せや人の命を奪ってしまうことが改めて分かりました。たくさんの人が苦しんだこの戦争をもう二度としたくないと思いました。これから私は、差別や意地悪をされている人がいたら、助けてあげたいです。(4年)

元気いっぱい仲良しでやさしい3年生になれるようにがんばります。戦争のない世の中になってほしいです。(3年)

戦争はぜったいにしてはいけないことだと私は思いました。そのわけは人がきずつくからです。人がきずつかないようにみんなにやさしくしようと思いました。(3年)

ぼくは、赤いくつをきいて家ぞくをうしなうのはつらいと思いました。こわくてさみしそうでした。(2年)

せんそうはこわいとおもいました。せんそうをしたらかんけいない人もなくなるし、せんそうをしてもいいことがなんにもないからです。(2年)

みんながえがおでくらせるようにせかいのひとがやさしくなりますように(1年)

わたしは、あかいくつのおはなしをきいてかわいそうだとおもいました。どうしてかというとせんそうでたくさんの人がなくなったからです。へいわなよの中が、これからもつづいてほしいです。(1年)

6月30日には、4年生が長崎市まで平和学習に行ってきました。

活動内容は、平和祈念像前で集会(全校みんなで作った千羽鶴を折鶴の塔へ)をした後、平和公園・爆心地公園・原爆資料館の見学でした。平和案内人の方に来ていただき、6班に分かれて詳しい説明を聞くことができました。長崎の地に行って実際の場所を見て、専門の方から話を聞いたことは、平和について考えるよい機会になりました。

